

静岡県立美術館 自己評価システムの見直し

静岡県立美術館と県庁文化政策課では、平成 22 年度に「自己評価システム見直しワーキンググループ」を設置し、新たに計画を策定する平成 23 年度以降の美術館自己評価システムの見直し作業を実施した。

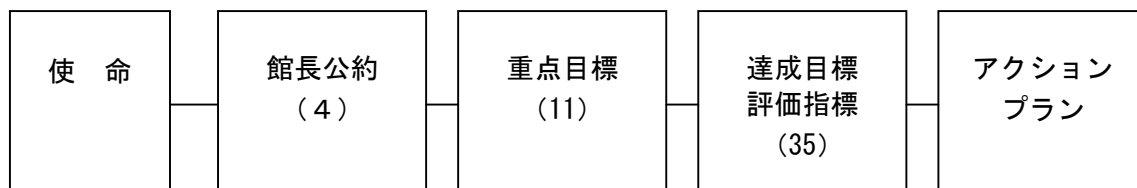
本報告書において、平成 23 年度から平成 25 年度までの新しいシステムでの評価指標等が公表されたのに伴い、見直しの内容を別添資料として公表する。

目 次

第1章 現行システムの成果と問題点	1
第2章 見直しの基本的な考え方	3
第3章 新たな目標等の設定	4
第4章 自己評価報告書の改善（効率化）	10
■自己評価システムの全体像（平成23年度～平成25年度）	11
■自己評価システムの体系（平成23年度～平成25年度）	12

第1章 現行システムの成果と問題点

1 現行システムの構成



- ・現行の静岡県立美術館自己評価システムは、館の「使命」を達成するため、中期的な視点をもとに4つの「館長公約」、11の「重点目標」を設定し、それぞれに沿って毎年度事業（アクションプラン）を実施している。
- ・これらの取組の実績・効果を評価し、次年度以降の改善に生かすため、35項目の「評価指標」（29項目の定量的指標、6項目の定性的指標）を設定している。
- ・また、館が進める重点的な取組を県民に分かりやすく提示するため、毎年度「達成目標」（定量的目標と定性的目標）を設定・公表している。

<現在のシステム運用スケジュール>



2 現行システムの成果

- ・中期的な視点に立って展覧会を企画したことにより、計画の最終年度である平成22年度には、県立美術館における展覧会の観覧者数が16年ぶりに25万人を超え、歴代3位となる264,207人に達した。
- ・評価指標を絞り込むことで、評価作業の効率化が図られるとともに、観光局と連携した「夕暮れロダンツアー」、「ムセイオン静岡」の構成員であるSPACと連携した「朗読会」の実施など、ロダン館での新たな取組が強化できた。
- ・定性指標の導入と定着により、調査・研究、展覧会、教育普及等の質的充実を図ることができた。

3 現行システム（報告書）の問題点

(1) 中期の視点と単年度の視点とのシステム上の位置付けが明確にされていない。

- ・4つの館長公約に基づく戦略体系（評価指標）は、館の使命達成に必要な施策とその評価

指標を網羅した 3 年間の中期的な体系である。

- ・しかし、単年度の視点については、各年度ごとに取組方針として公表しているが、システム上明確に位置づけられていない。

(2) 評価指標と関係のない調査分析の負担が大きい

- ・前回の見直しで 71 項目の「評価指標」を 35 項目に削減し評価の効率化に成功したが、以前の 71 項目のうち削除されたものは「美術館カルテ」として調査を継続し、分析作業を行っている。
- ・「アンケート結果まとめ」は現在の指標とは無関係であるが、「美術館カルテ」と同様、従前のおり調査分析され、報告書に掲載されている。

(3) 現状では重要性のうすれた評価指標が見られる

- ・「評価指標」には、これまでのデータ集積の中で、すでに重要性が薄れた指標が見られる一方、誤解のないように表現を修正すべき項目、新たな「評価指標」項目の設定が求められる。

(4) 館長公約の定義が明確ではない。

- ・計画の途中である平成 22 年度に館長の交代があった。評価システムにおける「館長公約」は中期の方針であり館長の交代により変わる性質のものではないが、「館長公約」という表現のため、館長の交代により変更するもののような誤解を与えるおそれがある。

第2章 見直しの基本的な考え方

前述のとおり、現行システムは良好に運営されていると考えられるため、基本的な体系は維持する。しかし、よりよいシステム運営を行うため。下記の点については、修正を行う。

1 システムにおける単年度の目標の位置付けの明確化

- ・システム上は、中期的な視点に基づき、3年間の目標は掲げられているが、単年度の目標が明確化されていない。そのため、単年度の具体的な方針を取組方針とし、システム上に明確化させた。

2 報告書内容の改善

- ・従前の指標である「美術館カルテ」を廃止するとともに、美術館カルテに関連したデータ分析である「アンケート結果のまとめ」を自己評価報告書から削除することで、より分かりやすい評価報告書とする。

3 表現の修正及び評価指標の再設定

- ・「館長目標」は、「運営基本方針」に改め、システムにおける定義を明確にする。
- ・「評価指標」項目は、従来の項目を基礎にしつつ、重要性の薄れた指標を削除し必要性に応じて新たな項目の設定を行う。

第3章 新たな目標等の設定

1 中期的な運営基本方針

「人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供する」という県立美術館の使命を実現するには、魅力ある展覧会や体験講座の開催によって、質の高い美術体験を提供するという美術館の基本的機能の充実が不可欠である。

このためには、中期的に学芸部門を中心とする美術館の企画力を高めていくとともに、学校教育や生涯教育と連携した芸術教育と普及活動の充実を図ることが必要となる。

また、より多くの人々に美術館の魅力を知り、体験してもらうためには、県外からの誘客も含め、対象別の効果的なPRなど、さらに積極的な広報を工夫するとともに、来館者が満足できる館内環境を整えていくことが重要である。

したがって、今後3年間において、中期的な視点に立ち、以下の4項目を「運営基本方針」として重点的に取り組むものとする。(この内容は館長交代が生じても変わらないものであるため、「館長公約」という表現を「運営基本方針」に改めた。なお、従前のものと比べ表現の一部を変更している)

【中期的な運営基本方針】（平成23年度～平成25年度）

- A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します
- B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します
- C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます
- D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

2 重点目標・評価指標の設定

上記で設定したそれぞれの運営基本方針を実現するため、次のとおり、具体的に取り組むべき項目を「重点目標」として設定する。

【運営基本方針A】

人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します

・運営基本方針A実現のため、従前の計画に引き続き次の3項目を重点目標に設定し、取り組む。

- ① 新たな視点や工夫に基づく自主企画展を積極的に開催します
- ② 他の美術館・大学との連携・交流を進め、企画力を強化します
- ③ 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します

・各重点目標について、次の評価指標により目標を設定し、達成度を検証・評価する。

なお、指標の変更点として、他の美術館との連携を一層重視するため、「大学等と連携

した取組件数」を「他の美術館や大学と連携した取組件数」と表現を修正し、必要に応じ補足資料として参考指標を追記することでより実態が分かりやすい報告書とする。

評価指標項目		区分	備考（ねらい、【修正内容】）
1 新たな視点や工夫に基づく自主企画展を積極的に開催します			
1	展覧会の観覧者数	定量	多くの人々に展覧会を見てもらうことをめざす
2	自主企画・企画参加型展覧会の回数	定量	単なる巡回展ではなく、館として企画に参加することを重視
3	作品やテーマに興味を持った人の割合	定量	展覧会の効果を検証する（アンケート調査数値）
4	展覧会における新規来館者の割合	定量	新たな客層を着実に増やしていく（アンケート調査数値）
5	展覧会に対する外部評価（レビュー）	定性	展覧会の質を評価
2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します			
6	調査研究の発表件数（種類別）	定量	学会発表、紀要での論文発表、雑誌への投稿など種類別に把握【注釈の記載、調査研究報告書の別添掲載】
7	内部セミナー・研究会・研修の回数	定量	企画力向上に向けた取組を増やす
8	他の美術館や大学と連携した取組件数	定量	連携事例を実績として検証する【指標の表現の修正】
9	調査研究に関する外部評価（レビュー）	定性	調査研究の質を評価
3 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します			
10	収蔵品展の観覧者数	定量	コレクションをより多くの人に見てもらう
11	収蔵品の公開件数（貸出し含む）	定量	コレクションの活用状況の評価
12	作品購入件数・購入価格	定量	コレクション充実の指標【参考指標】
13	作品寄贈件数・評価価格	定量	コレクション充実の指標
14	公開または貸し出した展覧会における作品の位置付け等に関する学芸員レポート	定性	コレクションの質や活用状況を、内容的に検証

【運営基本方針B】

地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します

・運営基本方針B実現のため、従前の計画に引き続き次の3項目を重点目標に設定し、取組を行う。（一部表現の修正あり）

- ① 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します
- ② 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を企画し開催します
- ③ 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実させます

- ・各重点目標について、次の評価指標により目標を設定し、達成度を検証・評価する。

評価指標項目		区分	備考（ねらい・【修正内容】）
1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します			
15	学校教育と連携した取組数	定量	学校教育との連携強化を目標として掲げる【参考指標】
16	鑑賞系プログラム数	定量	鑑賞系プログラムの充実を目標として掲げる【参考指標】
17	コレクションを活用したプログラム数	定量	コレクションの活用状況を検証【参考指標】
18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート	定性	プログラム実施状況を総合的に自己評価する
2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を企画し開催します			
19	講演会等の開催回数	定量	美術に関する教育普及機会の充実を図る【参考指標】
20	学芸員のフロアレクチャー等の数	定量	学芸員による普及活動の活発化をめざす【参考指標】
3 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実させます			
21	地域住民等と連携した取組件数	定量	連携実績の向上をめざす
22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数	定量	連携のきっかけ・成果となる催事を充実する
23	地域住民等と連携した取組に関する職員のレポート	定性	連携した取組の内容・質の検証を行う

【運営基本方針C】

さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます

- ・運営基本方針C実現のため、従前の計画に引き続き次の3項目に取り組む。（一部表現の修正あり）

- ① 広報戦略を策定し、広報の質を高めます
- ② 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます
- ③ ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします

- ・重点目標について、次の評価指標により目標を設定し、達成度を検証・評価する。
- ・観光業界などとの連携を一層推進するため、評価指標に「観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数」を新設し、効果を検証することが難しい「取材の件数」を削除する。

評価指標項目		区分	備考（ねらい・【修正内容】）
1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます			
24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合	定量	情報発信手法の適切さ・効果を検証する

25	ホームページへのアクセス数	定量	美術館ホームページの活用状況を検証する
26	ホームページの満足度	定量	美術館ホームページの質を利用者の視点から検証する

2 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます

27	観光業界や他のイベントとの広報連携の取組数	定量	観光業界等との広報連携の強化を行う【新設】
28	広報手法に関する新たな取組についてのレポート	定性	美術館職員により新たな取組内容やその効果の検証を行う

3 ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします

29	ロダン館の入館者数	定量	ロダン館への集客を目標として掲げる
----	-----------	----	-------------------

【運営基本方針D】

常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます

- ・運営基本方針D実現のため、従前の計画に引き続き、次の2項目に取り組む。（一部表現の修正あり）

- ① 館内施設を充実させ、満足度を高めます
- ② 周辺環境やアクセスの利便を向上させます

- ・各重点目標について、次の評価指標により目標を設定し、達成度を検証・評価する。

評価指標項目		区分	備考（ねらい・データ出典等）
1 館内施設を充実させ、満足度を高めます			
30	美術館利用者数（計）	定量	展覧会だけでなく、レストラン、ショップなど各利用者を検証
31	鑑賞環境に関する満足度	定量	利用者の視点で環境を検証する（アンケート調査）
32	レストラン・カフェ利用者の満足度	定量	利用者の視点で環境を検証する（アンケート調査）
33	ミュージアムショップ利用者の満足度	定量	利用者の視点で環境を検証する（アンケート調査）
2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます			
34	来館者のアクセス満足度	定量	利用者の視点で環境を検証する（アンケート調査）

3 目標数値

上記の「評価指標」それぞれの項目について、3年間の段階的な数値目標を設定する。(定性的指標は除く)

以下に平成20年～平成22年の実績及び平成23年～平成25年の目標値を示す。

評価指標		実績			目標値		
		H20	H21	H22	H23	H24	H25
運営基本方針A 人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します							
重点目標1 新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します							
1	展覧会の来館者数(人)	190,669	119,416	266,786	170,000	170,000	170,000
2	自主企画・企画参加型展覧会の回数(回)	4	2	3	4	4	4
3	作品やテーマに興味を持った人の割合(%)	86.0	80.9	85.2	88.0	88.0	88.0
4	展覧会における新規来館者の割合(%)	17.3	21.4	21.5	20.0	20.0	20.0
重点目標2 他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します							
6	調査研究の発表件数(種別)(回)	14	11	14	10	10	10
7	内部セミナー・研究会・研修の回数(回)	12	14	12	14	14	14
8	他の美術館や大学等と連携した取組件数(件)	5	4	3	5	5	5
重点目標3 特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します							
10	収蔵品展の観覧者数(人)	17,850	18,042	12,526	20,000	20,000	20,000
11	収蔵品の公開件数(貸出し含む)(件)	446	496	337	500	500	500
12	作品購入件数・購入価格(件・千円)	3 12,757	3 133,350 (113,400)	4 98,400 (86,000)	1 5,000	-	-
13	作品寄贈件数・評価価格(件・千円)	47 69,625	20 22,950	2 92,500	10 10,000	10 10,000	10 10,000
運営基本方針B 地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育・普及活動を展開します							
重点目標1 質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します							
15	学校教育と連携した取組数(件)	385	305	348	350	350	350
16	鑑賞系プログラム数(件)	15	13	13	13	13	13
17	コレクションを活用したプログラム数(件)	16	17	19	16	16	16

評価指標		実績			目標値		
		H20	H21	H22	H23	H24	H25
重点目標2 講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を充実させます							
19	講演会等の開催回数(回)	240	173	177	210	210	210
20	学芸員のフロアレクチャー等の数(回)	58	86	123	20	20	20
重点目標3 地域住民、企業、NPO等と連携した美術館活動を充実させます							
21	地域住民等と連携した取組数(件)	10	6	6	4	4	4
22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数(件・人)	101 4,054	34 6,506	62 4,908	90 5,500	90 5,500	90 5,500
運営基本方針C さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます							
重点目標1 広報戦略を策定し、広報の質を高めます							
24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合(%)	69.8	66.5	69.4	70.0	70.0	70.0
25	ホームページへのアクセス件数(件)	164,000	147,225	353,500	170,000	250,000	250,000
26	ホームページの満足度(%)	74.3	71.9	74.3	70.0	75.0	75.0
重点目標2 観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます							
27	観光業界や他のイベントとの広報連携を行った取組数(件) ※新設	-	-	-	2	2	2
重点目標3 ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします							
29	ロダン館の入館者数(人)	81,771	45,751	131,240	80,000	90,000	90,000
運営基本方針D 常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます							
重点目標1 館内施設を充実させ、満足度を高めます							
30	美術館利用者数(内訳)(人)	389,194	221,185	453,507	400,000	400,000	400,000
31	鑑賞環境に対する満足度(%)	87.4	84.4	89.8	90.0	90.0	90.0
32	レストラン・カフェ利用者の満足度(%)	54.5	68.8	53.8	70.0	70.0	70.0
33	ミュージアムショップ利用者の満足度(%)	80.6	84.8	85.6	85.0	85.0	85.0
重点目標2 周辺環境やアクセスの利便を向上させます							
34	来館者のアクセス満足度(%)	76.4 80.7	78.0 75.8	75.8 72.0	80.0	80.0	80.0

※1 H24及びH25の展覧会の来館者数は、展覧会計画未定のため、暫定数値を示した。

※6 調査研究の発表件数とは、主な論文(カタログ論文・研究紀要・学術論文・学会発表等)の発表件数である。

※34 上段:公共交通機関で来館した方、下段:自家用車で来館した方。

第4章 報告書の改善（効率化）

前回の見直しにより、従来の戦略体系は、「美術館カルテ」とし、美術館のパフォーマンスを検証する基礎データの枠組みとして活用することとしてきたが、現行指標による評価が定着したことにより、さらに効率的な評価システムを確立するため、自己評価報告書において「美術館カルテ」「アンケート結果まとめ」の項目を削除する。

（※自己評価システムの見直しの一環として実施した参考指標等の掲載などの報告書様式の改善は、システム変更を伴わない改善のため、平成22年度の報告書から反映されている）

静岡県立美術館 自己評価システムの全体像

(平成 23 年度～平成 25 年度)

【使 命】 = 美術館のめざす姿

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのために、コレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります



< 自己評価の流れ >

目標管理システム = P 計画 → D 実行 → C 評価 → A 改善のサイクルによる運用

Plan (計画)

【運営基本方針】

< 4 項目 >
中期的な経営課題への取組方針・目標を館長が設定・公表する

【重点目標】

< 計 11 項目 >
運営基本方針実現のために取り組むべき項目を運営基本方針ごとに設定する

【評価指標】 【達成目標】

< 34 項目 >
〔 定量的指標 : 28 〕
〔 定性的指標 : 6 〕
重点目標の目指す水準、達成状況を評価するための指標。目指す水準を【達成目標】として設定

【取組方針】 【アクションプラン】

重点目標、達成目標を実現するために当該年度に取り組む具体的な方針を【取組方針】として、具体的な内容を【アクションプラン】として明確化

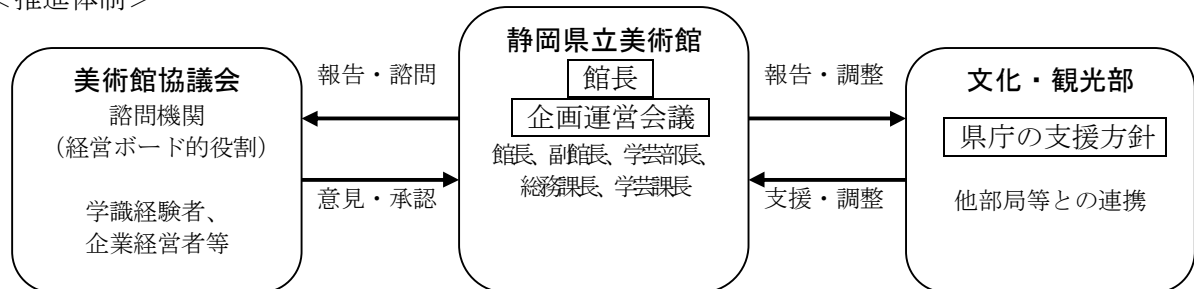
< 実績 >
・評価指標の状況、取組状況など

Do (実行)

Check (評価)

Action (改善)

< 推進体制 >



自己評価システムの体系（平成 23 年度～平成 25 年度）

使命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。そのためにコレクションを基盤として人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

運営基本方針		重点目標		評価指標	
A	人々の感性を豊かにし、生活に新たな感動をもたらすような展覧会を催します	1	新たな視点や工夫に基づく企画展を積極的に開催します	1	展覧会の来館者数
		2	他の美術館・大学との連携を進め、企画力を強化します	2	自主企画・企画参加型の展覧会の回数
		3	特徴あるコレクションを形成し、効果的に活用します	3	作品やテーマに興味を持った人の割合
B	地域や学校教育との連携を深め、質の高い芸術教育と普及活動を展開します	1	質の高い芸術教育と普及のプログラムを開発します	4	展覧会における新規来館者の割合
		2	講座・講演会・シンポジウム・演奏会等を企画し開催します。	5	展覧会に対する外部評価 【定性】
		3	地域住民、企業、NPO 等と連携した美術館活動を充実させます	6	調査研究の発表回数
C	さらに積極的な広報を工夫し、美術館活動の情報発信に努めます	1	広報戦略を策定し、広報の質を高めます	7	内部セミナー・研究会・研修の回数
		2	観光業界などとの連携や新たな広報チャンネルの開拓に取り組みます	8	他の美術館や大学と連携した取組件数
		3	ロダン館の認知度を高め、来館者を増やします	9	調査研究に関する外部評価 【定性】
D	常に施設の改善に努め、美術館の快適度を高めていきます	1	館内施設を充実させ、満足度を高めます	10	収蔵品展の観覧者数
		2	周辺環境やアクセスの利便を向上させます	11	収蔵品の公開件数
				12	作品購入件数・価格
				13	作品寄贈件数・価格
				14	公開・貸し出した展覧会における学芸員のレポート 【定性】
				15	学校教育と連携した取組数
				16	鑑賞系プログラム数
				17	コレクションを活用したプログラム数
				18	普及・教育プログラムに関する美術館職員のレポート 【定性】
				19	講演会等の開催件数
				20	学芸員のフロアレクチャー等の数
				21	地域住民等と連携した取組数
				22	館内空間を生かした催事の件数・参加者数
				23	地域住民等と連携した取組に関する職員レポート 【定性】
				24	美術館に関する情報が「入手しやすい」とする人の割合
				25	ホームページのアクセス件数
				26	ホームページの満足度
				27	観光業界や他のイベントとの広報連携を行った取組数
				28	広報手法における新たな取組状況に関しての美術館職員のレポート 【定性】
				29	ロダン館の入館者数
				30	美術館利用者数
				31	鑑賞環境に対する満足度
				32	レストラン・カフェに対する満足度
				33	ミュージアムショップに対する満足度
				34	来館者のアクセス満足度

